



# ムーアカデミー通信

Aichi Kaisho Forest Center News Letter vol.50 Winter 2022

葉が落ちて花も少ない寂しそうな森の中でも、木の枝を手にとると春を待つ小さな芽が出ているんだ。これを冬芽と言うんだ。

この冬芽はヨウブと言う木で、植物好きの人たちはこれをナポレオンが被っていた帽子に見立てて、「ナポレオンハット」と呼ぶんだ！



## 今号のトピックス

- ・海上の森散歩 ～冬の海上砂防池～……………(2P)
- ・この人 あいち海上の森交流会 早川 健一さん……………(3P)
- ・センター職員随想リレー 語りべの一言……………(3P)
- ・海上の森はいま（最近あった出来事）……………(4P)

## 収穫感謝祭が行われました！！



11月21日、海上の里で、恒例の収穫感謝祭がありました。里と森の教室の参加者、海上の森の会の皆さん方が集まり、餅つきと共に、芋煮、焼き芋を作りました。

新型コロナの感染者は減少傾向にあったとは言いつものの、第6波が懸念される状況下であることから感染防止策はしっかり行いました。

芋煮は食器の持参は止め、市販のものにスタッフがよさうことにしました。餅つきも、手返しや後処理はスタッフが言い、その場で食わず、のし餅にして持ち帰ってもらいました。

こうした制約下で行われた収穫感謝祭でありましたが、子どもも大人も初めての餅つきに挑戦したり、芋煮に舌鼓を打ったりと晩秋の1日を楽しみました。

## 海上の森散歩 ～冬の海上砂防池～

海上砂防池は満々と水を貯え、青く美しい湖面に立ち枯れの木が林立しているさまが上高地の大正池の様に  
見えるため、来訪者から「海上大正池」と通称され親しまれています。皆さんが写真などで目にするのはこの姿で  
はないでしょうか。

しかし、このダムは砂防ダムであると同時に、農業用のため池としての機能も併せ持っていることから、管理のため  
秋分の日から翌年の春分の日までの間、水が抜かれます。水を抜くのは砂や泥が貯まらないようにするためです。

水が抜かれている間は、湖底が露わになり、その荒涼とした景観や意外と水深があることに驚かれる事でしょう。  
この間は、辺り一帯が泥の地面になるため、海上の森に生息している動物たちの足跡がくっきりとあちこちに  
残されています。一度、冬の海上砂防池に足を伸ばしてみて、これらの足跡からどんな動物たちが棲んでいるのか推  
理してみても如何でしょうか。



水を抜いた景観



水を湛えた景観



イノシシ足跡

### 海上の森の哺乳類

アライグマ	ニホンカモシカ
イタチ類	ニホンジカ
イノシシ	ニホンリス
キツネ	ネズミ類
タヌキ	ノウサギ
テン	ハクビシン

## この人「子どもたちにリアルな自然体験を！」 早川健一さん

海上の森との出会いは、今から60年ほど前、父に連れられて弟と一緒に山口の堰堤に行ったこと。

そこでは小魚を獲ったり愛犬と水遊びをした記憶だけが残ってる。ただ、そこが海上の森の一角と知ったのは8年前に、『あいち海上の森大学』に入学してからだ。

僕は、どちらかと言えば文系の人間で自然のことは余り詳しくない。山登りやトレイルが好きで、その延長で海上の森大学に入った。だから座学で話される言葉、例えば極相林とか林縁など初めて聞く言葉が多く、すぐには理解できなかった。森に入っているいろいろな体験する実学が楽しみだった。それでも講師や仲間との会話の中で自然がもつ不思議や面白さが少しずつ分かるようになった。

今は、海上の森大学当時の仲間や各地で色々な活動している人が参加する「あいち海上の森交流会」で世話人を務めている。

役割は、交流会が海上の森をベースに年に2回行う「センスオブワンダー」と「スプリングセミナー」の企画や実施に向けての準備・打合せ等だ。

「センスオブワンダー」は子どもたちと保護者をリアルな森に触れさせ、自然の不思議や面白さ、そして怖さ等を知ってもらうのがテーマ。しかし夏に開催するので、ここ2年はコロナ感染予防と熱中症対策が世話人の一番のテーマだった。

「スプリングセミナー」は、会員同士の学習や交流の場だ。ただ前回からセンスオブワンダーで知り合った子どもや保護者にも参加を呼びかけ交流の輪が広がっている。

交流会は「あいち海上の森大学同窓会」から平成30

年に生まれ変わった新しい団体。イベント開催の合言葉は「やってみたいことを出し合い、実現に向けみんなで支えあう」、「STEP BY STEP! ~何事も急がず、一歩ずつ進めよう~」だ。

手順は会員の中で、その企画面白いねと賛同する人が集まり、いろいろアイデアや意見を出し合い実現に至る。そのため形になるまで時間がかかる場合もある。しかもボランティアだ。

自腹覚悟で手間も暇もかけて何が楽しいの?と問われれば、参加する子どもたちや保護者の反応と答えよう。ただし、センスオブワンダーは2年前から、あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業に認定され交付金を得られるようになった。

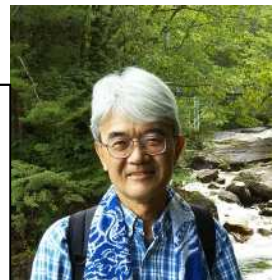
イベント後「面白かった!」「次も参加したい!」と目を輝かせて話してくれる子どもたちの笑顔が活動の源だ。もちろん「面白くなかった」と厳しい答えが返ってくる場合もある。

正に「教えることは教えられること」の実践の場だ。

さあ、今度は、どんな企画を考えて子供たちを楽しませようか、驚かせてやろうか…。

### <プロフィール>

瀬戸市在住(生まれも育ちも瀬戸)・60代  
あいち海上の森交流会・世話人



## センター職員随想リレー 語りべの一言

### 私が海上の森で出会った人たち

私は一昨年4月からあいち海上の森センターの一般職非常勤職員として運よく採用され、今日に至るまで苦しみつつも楽しく里森教室や耕地管理、生物季節調査を担当しています。

それまでの47年間はずっと一つの会社に勤めていて社内の複数分野での異なる仕事に従事しながら、商品や製品を開発してお客様に喜んでいただくという目的が共有されていました。チームメンバー間では常に状況や方向性が確認されていたので大きな意識の差異が生じることはありませんでした。

振り返って、今の私は物理的な新しい物を作っていま

せんが「自分にとってのお客様は誰なのか」を以前と同じ様に考えています。海上の森を訪れる人や海上に住まう人はそれぞれの価値観とそれぞれの期待感を持っておられます。過去への関わり方や未来についての考え方も一様ではありません。海上の森の会のメンバーも同じでしょう。私に個性として備わっている考え方の手順や優先する価値観がある様にそれぞれの人にもそれぞれの個性があります。

これからも、私の人生を支えてきた信条である「95%の差異を許容し5%の共感すべきことを探す」に基づいて多様性に対処していこうと思っています。(M.M)

## 海上の森はいま

### 「里山暮らしコース」が開催されました！

「海上の森アカデミー」の「里山暮らしコース」が開催されました。当コースでは、「森と暮らしをつなぐものづくり」をテーマに、11月から12月にかけて、5日間の講義・実習が行われました。

初日は林業や山仕事に関する講義を受けた後、遊歩施設内の物見の丘でノコギリを使ってヒノキの間伐を行ったり、薪割りを体験しました。

2日目は愛知県陶磁美術館で瀬戸の里山と焼き物の関係を学んだ後、実際に土をこねて作陶しました。

3日目は工作室で草木染めを行いました。染料はザクロ、クリのイガを使用しました。日本古来の板締めで手ぬぐいを参加者各々個性的な柄に染め抜きました。

4日目は2日目に作陶した作品を「現代風野焼き」によって焼き上げました。燃料には海上の森のソゴやリョウブ等を伏せ焼きした炭を用いました。

5日目は午前、焼き上げた作品を窯から出し鑑賞会を行いました。午後は研修室に移動し、名古屋大学大学院の高野雅夫教授から「日本の里山の過去・現在・未来」をテーマとした講義を受け、参加者全員で「里山で暮らすとはどういうことか」、「里山暮らしに必要なスキルとは何か」について話し合い、「ミライの里山」の在り方を考えました。

現代社会においては、薪や炭が燃料として使われることはなくなるなど、人々と里山との関係は希薄なものになってしまっています。生活を昔に戻すことはできませんが、持続可能な社会を目指すうえで、里山の魅力や資源活用の可能性を考えていくことはますます重要になっています。こうしたプログラムが、多くの方に新たな里山との関わり方を考えるきっかけになればと思います。



### 「森の楽校・森のようちえん」が開催されました！

体験学習プログラムの「森の楽校・森のようちえん」が12月5日に開催されました。森の楽校は小学生が、森のようちえんは4歳以上の園児が親子で参加しました。森の楽校ではクズやフジの蔓を編み込み、飾りにヒイラギやナンテンなど森の素材を活用したリースづくり、森のようちえんではビニール袋にホオノキ等の葉っぱをテープ止めた服を作りファッションショーを行いました。皆、思い思いに工夫を凝らし、個性的なリースや服ができ満足げでした。リースは各家庭の玄関やお部屋に飾られきっとクリスマスを盛り上げたことでしょう。



#### 編集後記

冬本番、海上の森は虫や花を見る機会が減り、少し寂しい感じがします。しかし、木々が落葉し枝ばかりになった今は野鳥の姿がよく見え、観察するには絶好の時期でもあります。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 2022年1月28日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/>

< QRコード >



ホームページ